

# 平成26年度みやざき地域志向教育研究経費実施報告 妊産婦と乳児、家族のための災害支援教育の推進②

医学部看護学科小児・母性(母性)看護学領域

## 教育・研究・活動プログラムの開発 ＜主な講義内容と方法＞



### 実践助産概論

#### 母子・家族・女性への支援

- ・現状と課題
- ・助産師の災害支援(シミュレーション:災害時の分娩介助)
- ・文献購読

### 実践助産管理論

- ・病院・助産所における災害助産/看護(シミュレーション:アクションカードの活用)
- ・職能等関連団体との協働

### 統合看護論 I (災害看護概説)

- ・近年の災害と特徴
- ・定義・分類・支援理念
- ・災害医療と看護の概説
- ・災害に関する法律
- ・災害サイクルに応じた看護
- ・主な心身の障害と看護
- ・避難所の設営・運営
- ・トリアージ法(CRTは演習)

### 地域・国際母子保健論

- ・日本の災害支援政策
- ・災害看護における国際協働
- ・地域における家族の自主防災組織・育児支援活動支援

タイ:プリンス・オブ・ソンクラ  
大学看護学部, インドネシアとの  
共同研究

＜災害看護の教育方法の  
開発(Triage, Basic first aid の  
演習含む)＞

### 妊産褥婦・乳児・家族への 災害教育活動

- ・静穏期における備え
- ・発災時の生活実態と支援  
(避難所の状況、必要物資、衛生管理法、育児・母乳育児の重要性)

### 災害助産看護ネットワークの構築

- ・自主防災組織
- ・育児支援グループ
- ・助産師職



# 平成26年度みやざき地域志向教育研究経費実施報告①



## 妊産婦・乳児への災害支援の実態

### 1. 宮城県石巻市における聞き取り (10月)

- <支援側>・宮城助産師会産後あずかり事業／母子74組うち石巻市11組
- ・石巻赤十字／助産支援物資は1か月後、支援食の塩分と披露のためか妊娠高血圧症候群が高率になった。絆メールを継続中。母子のための暮らし確保が課題。避難ルートのイメージ重要。
  - ・保健師／母子・福祉避難所の設置。10日後に新生児訪問開始。6月に乳幼児健診再開(新潟中越地震より早い)
  - ・診療所助産師／避難所にティスポの分娩介助セット、非常用の連絡設備がほしかった。
  - ・レスキューシートが有用だった。
  - ・保母／ミルクは避難所より、使いながら備蓄できる公立保育所に備蓄しておくのがよい。
- <非支援者>
- ・被災経験があまりに異なり、母親同士話すことが憚られ、今回やっと話せた段階。
  - ・ソファーにしがみつくのがやっと。教室を居室にできたが、孤立感と恐怖感の毎日。
  - ・保健室のベットも一時期は使用でき、カーテンも有用だった。
  - ・推奨通り、一端県外に出、3か月後くらいに石巻に戻るケースが多い。

### 2. 宮崎市における自主防災活動

- ・様々な活動が活発に行われている。防災タワーにも工夫を凝らし、ガスボンベなども備蓄されている。知識の獲得・避難訓練だけでなく、生々しい体験の視聴、避難路を実際に歩き、避難ビルなどの確認、リスクアセスメント、災害食作り・試食、ロープワーク、避難所暮らしの工夫、それぞれの持ち分で活動がされている。
- (妊産褥婦・乳児特有のものは実施されていない)

挑戦

高台の住民が海辺住民を受け入れる試み

みやざき公共・協働研究会の活動もすごい!

### 3. 第3回 世界防災会議(仙台宣言)

- ・日本の先進的な、高校生の簡易トイレ、様々な災害用品、ともにすごい。
- ・気づいていなかった虐待、女性に対する暴力、DVの表在。
- ・日常的な自主防災活動の成果



### 4. 仙台市とも子助産院(内陸)の経験(3月訪問)

- ・前年に災害研修。水、灯油、ミルク、食糧など備蓄が役立った。壁への家具固定による壁の崩壊、転倒防止粘着マットが張り付いたままの固定表面からの剥れ、備品転落。それらの補修後、4月の余震で再び損壊。2度の費用負担。訪問時3度目の改築中。通常業務以外に産後預かり、女性よる乳房模型など手編み仕事起業。情報貼り紙、風呂ふるまいが有用。母乳を推奨しているがミルクはある程度必要。離乳食やおやつも必要。アウトドア用品が活躍。

